

ふるさと探訪

第74回 大明神川の松並木



東予地区を流れる大明神川は、古くから大水の度に河底に堆積した土砂を掘り取り、堤防上に積み上げてきたことから、現在のような天井川の姿となりました。

かつて、その土手には2千本を数えた松並木があり、地域のシンボルとして親しまれていましたが、マツクイムシ被害で多くが枯れてしまい、

今では残された古木に往時がしのばれる状況です。

しかし、毎年環境月間には、大明神川の土手で、地域自治会をはじめ、企業・各種団体など、多くの市民の皆さんに



遠くからでも見えた松並木が今ではわずかに残るのみ…



元気よく育つ若い松(上)と、多くの方々の参加をいただいたボランティア清掃活動

来月から「ふるさと探訪」は奇数月の掲載となり、偶数月は歴史小説家・菅靖匡さんの「我が心の西条」を掲載します。

菅さんは平成16年「ある一領具足の一生」で第10回歴史群像大賞優秀賞を受賞。戦国時代に生きた男たちの波乱に満ちた一代記を、独自の視座で生き生きと描いています。近著に「織田有楽斎」。

ふるさと西条に強くこだわり、現在も市内に在住し執筆活動を行っています。

どうぞご期待ください。



よってボランティア清掃が行われていくほか、青々とした松の若木が育っている姿を見ることがもできます。